

# 新とよはし第117号

2021/6/27発行

日本共産党豊橋市議団  
電話 0532-54-8215  
豊橋市大橋通3-153

## 6月議会一般質問

### 学校はコロナで悩む 児童生徒により沿った対応を

斎藤ひろむ

新型コロナウイルス感染症で、もっとも影響を受けている人たちに、小学校の児童／生徒がいます。

昨年三月は3か月間にわたる突然の学校休業がありました。小6、中3の児童生徒は、卒業による友人や先生との別れを惜しむ間もありませんでした。その後昨年度は夏休みも短縮され、行事も中止、縮小されるなど、子どもたちの学校生活に多大な影響がありました。また、家庭環境の変化も子どもたちに影響を与えています。保護者の収入が激減をしたり、在宅ワークによるストレスが子どもに向けられ、DVIにつながることもあります。質問では、こうした子どもたちにたまるストレスがどのような影響を与えていたか、どういう対策が取られているかを、聞きました。

### 相談1. 2倍、欠席率1.3倍…コロナの影響は児童生徒にも

答弁では「スクールカウンセラーや教育相談室などの相談は、昨年度1.2倍に。4月度の7日以上の欠席率は1.3倍になっている」「仲間との交流の抑制などで心を痛める子どももいる」とのことでした。そうした子どもたちへの対応は「教育相談室と学校が情報共有をはかり、対策を考えて支援している」「欠席の多い児童には、家庭訪問や電話連絡を頻繁にして学校とのつながりを切らさないようにしている」とのこと

です。また、生活サポート委員会を開いて、支援のあり方を協議し、スクールカウンセラー（以下SC）やスクールソーシャルワーカー（以下SSW）と連携も図っておりました」とのことでした。

現場からは、学校の先生が、SCとSSWの役割の違いをしっかりとつかんでつなげているか不安という声も聴いていましたが、「つながり早見表」を作成して、問題を抱える子どもに最も適した対応できるように、専門機関へのつなぎ方を一目でわかるような工夫もしているとのことでした。

親がつかみきれない、子どもたちのストレスは、学校でもっとも現れます。担任の先生や学校の先生方の集団の目と、SCやSSWなど専門家の支援などしっかりと子どもたちに寄り添った対応ができると期待しています。

### 愛知県のスクールカウンセラーを削減は許せない 党の県議席が必要です

そんな中、愛知県がSCの学校への配置の時間数を削ってきました。豊橋市の教育長は「SCへの相談回数は増えており、面談時間が少なくなったり予約を取りにくかったりしているのは事実。教員がSC情報共有する時間も取りにくくなっている」と答弁しました。愛知県が、コロナ禍での子どもたちに寄り添うならば、SCの配置時間を減らしてきたのは論外です。県の教育予算増は必須の課題です。やはり、愛知県議会に共産党の議員が必要だと痛感しています。



## 「生理の貧困」について問う

中西みつえ

### 今なぜ「生理の貧困」なのか

コロナ禍の影響が長引く中、女性の貧困が顕在化し、経済的な事情などで必要な生理用品が買えない、「生理の貧困」が社会問題となっています。女性の生理は世界でも日本でも歴史的につくられた「穢れ」の概念が強く、長い間、語ることがタブー視されてきました。今、日本でも沈黙を破り、女性の生理について語り始められています。生理をめぐる不平等に目を向け、ジェンダー平等を実現していくこと、取り組みが進められています。「#みんなの生理」という団体が高校生、大学生を対象に行ったアンケートでは、5人に1人が「金銭的な理由で生理用品の入手に苦労した」と答え、「購入できない場合生理用品を長時間使う」「トイレットペーパーなどで代用する」という深刻な声が寄せられました。「生理の貧困」は特に若い女性を中心に広がっているとされる中、全国で生理用品の無償配布を行う自治体が増えてきています。

### 豊橋市における「生理の貧困」の取り組みについて

豊橋市は、防災備蓄品1,500パックを活用して5月7日よりスタートしました。現在市内10ヶ所の相談窓口と小中学校等で生理用品の無償配布を行っています。そこで「生理の貧困」をどのようにとらえているのか、豊橋市の

取り組みについて質問しました。

「『生理の貧困』について、潜在していた女性特有の課題としてとらえ、大学生など若い方に限定するのではなく、早急に幅広い女性に向けた取り組みにした。また、生理用品の配布をきっかけとして、困っている女性を必要な支援につなぎ独立させないことを目的としている。」とのことでした。

現在、生理用品と一緒に各種相談窓口の案内チラシを配布していますが、困っている方の声を聞いて実態を把握することも必要ではないかと考え、アンケート用紙の配布を求めました。

また、声に出しづらい「生理の貧困」の対応の1つとして、公共施設や学校の女性トイレに生理用品を常備する取り組みを紹介しました。

「生理の貧困」が女性だけの問題でなく、社会全体の問題として全国に広がったことは、「女性の生理」への理解が進んでいくことにつながります。ジェンダー平等の社会の実現に向け、さらに豊橋市の取り組みを発展させていきたいです。

## 「ゾウの群れ飼育」市民への充分な説明を求める

鈴木みさ子

5月19日に「アジアゾウ3頭をあらたにむかえることになった」「すでに中部国際空港に到着しており、20日の早朝から豊橋の動物園に移動する」という発表がありました。

到着後の発表となったのは、寄贈相手のインドのマイソール動物園との間で、ゾウが到着す

## 6月議会報告会のお知らせ

7月2日(金) 午後1時30分～3時30分

市民センターカリオビル4階中会議室

主催：日本共産党豊橋市議団  
斎藤ひろむ・鈴木みさ子・中西みつえ



どなたでもお気軽にご  
参加ください

るまで公表しないという寄贈条件があったため、一部の職員にしか知らせない「トップシークレット」であったということでした。

豊橋の動物園で「ゾウの群れ飼育」の計画が持ち上がったのは2012年のことですが、これまで、ゾウの入手の見通しが示されず、市民への説明もされてこなかったので、今回の「ゾウの到着」はまさに、「寝耳に水」でした。

これまでに、メスゾウのアーシャが2回の出産をしたものの、2頭の子ゾウはいずれも亡くなってしまうという残念な出来事もありました。現在は3頭のゾウを飼育しており、5900m<sup>2</sup>という国内最大の広さの屋外運動場が昨年度完成しているものの、あらたに6頭ものゾウが住むことのできる「ゾウ舎」の建設は、未着手のままでです。

メスゾウを中心とした群れで子育てしながら、長い距離を移動して過ごすというゾウの生態は、今ではよく知られています。計画が持ち上がりから9年の間に、国内の動物園でのゾウの飼育の在り方も「群れ飼育」を指向するものに変わってきており、公立では札幌、京都、上野などの例があります。

しかし、豊橋で「群れ飼育」を行なう目的、意義、費用も含めた具体像を示し、市民の意見を聞くということを飛び越して、既成事実からの出発であり、他会派からも異論が出されました。

## ゾウの導入にかかる新規費用は、約1.5億円

ゾウの輸送費用が5700万円（当初予算で対応）、インドの動物園へ寄贈する（売買でなく、動物の交換という形）ジャガー、オラウータンなど7種、23頭の動物の購入費用7500万円、餌代、2名の飼育員の増員などで1900万円（計9,400万円の補正予算）がかかっています。この補正予算には、日本共産党市議団は、「ゾウの群れ飼育」に対する市民的合意のないまま、一連の計画が進められたことから、今後の情報の公開、十分な説明を求めつつ反対をしました。



## 市民負担を押し付ける条例案に反対

### ▷カリオンビル・子ども未来館「ここにこ」などの利用料値上げ

豊橋市では公共施設管理方針、公共施設のあり方検討委員会の意見に基づき、2018年から公共施設の利用料の大幅値上げを行なってきています。ただし、指定管理者が利用料金制を導入している施設は、その更新年度に料金の改定を行なうこととしていたため、2022年4月1日からカリオン、ここにこ、アクアリーナが対象となり、それぞれ利用料を1.5倍とする条例案が提出されました。

カリオンビルの多目的ホールの場合、全日使用で8,490円から12,730円に、中会議室は5,840円から8,750円へと大幅な値上げです。

もともと、将来の施設の修繕や改築費用を受益者負担とする公共施設料金値上げには、市民からも反対の声が根強く、コロナ禍においては値下げをすることこそ必要です。

### ▷「つつじ荘」の食費の値上げ

特別養護老人ホームの入所者、デイサービス、ショートステイの利用者さんの食費を8月から値上げするもので、所得と預貯金の額によって値上げの額は違いますが、多い方は1年間で約19,000円の負担増となるものです。

見過ごすことができるのは、介護保険法の改悪によって、食費や居住費に対して補助をする「補足給付」の見直しが同時に行われることです。

非課税世帯であっても、所得金額が120万円を超える場合、預貯金が500万円以下（ご夫婦では1,500万円以下）の方が、補足給付から外れるため、ひと月の食費負担が一気に2万円増えることになります。介護サービス利用料や、医療費窓口負担の2倍化などが続く中で、一体どれだけ高齢者いじめが続くのか、つつじ荘の食費値上げにとどまらない一連の介護保険法改悪、広域連合でも追及していきます。

## 6月補正予算からコロナ対策の主なものをお知らせします

### 〈感染者の早期発見・感染拡大の防止〉

当市議団が求めてきた「検査の拡大」が進みつつあります！

○高齢者施設と障がい者施設のPCR検査費用 1人当たり2万円

感染者が発生した施設において行政検査の対象（濃厚接触者など）とならなかつた方に対して、施設が自費で検査を行なった場合の補助金

・「入所施設」は当初予算すでに実施

・新たに「通所・訪問」も対象に

○抗原検査キット購入費用を助成 一回当たり1人3000円

対象施設：高齢者施設・障がい者施設・保育所・認定こども園・児童養護施設・児童クラブ・小中学校の特別支援学級・くすのき特別支援学校

### 〈ワクチン接種の円滑な推進〉

○医療機関の休診日の個別接種開設協力金 接種単価平日2800円→休日4200円

○集団接種医師派遣協力金 1日40000円

○集団接種会場への路線バスの増便 豊橋市民病院線・中浜大崎線

○集団接種会場へのタクシ一代補助(往復1200円まで)



### 〈生活／経済活動支援〉

○がんばる商店等感染症対策強化支援補助金

一般消費者向けの全商業者に対象を拡大 1店舗当たり10万円を上限に CO2測定器、飛沫防止パネル、

キャッシュレス機器、自動精算機などの備品購入を補助

## 64歳以下の方のワクチン接種について

### 今後のスケジュール

区分	クーポン券発送	予約開始日
16歳以上65歳未満 ※①優先接種の方 ②それ以外の方	6月28日以降順次発送	①クーポン券到着次第 ②7月15日
12歳以上16歳未満	7月下旬以降順次発送	クーポン券到着次第

※優先接種の方…基礎疾患を持っている方

障がい者施設・デイサービス・訪問介護の従事者・保育施設の職員など・特別支援学級・特別支援学校の教職員など。

接種場所…かかりつけ医のほかに集団接種(市役所1階・ライフポート豊橋・マリエール)

お知らせの方法…ホームページ・自治会回覧板(市議団が提案し実現)

